

# はるかな尾瀬

## 目次

- 02 特集  
住民参加による尾瀬の保護活動
- 04 リレーエッセイ  
アオモリトドマツの感染症
- 06 エッセイ尾瀬好日  
①尾瀬と東京電力 今昔  
②出会いの尾瀬
- 08 現地情報
- 10 連載コラム  
①会津駒ヶ岳、帝釈山・田代山で尾瀬新体験  
②尾瀬に笑顔という花を咲かせたい  
③何度でも、会津駒ヶ岳
- 12 TOPIX
- 13 尾瀬ボランティア情報
- 14 尾瀬保護財団からのお知らせ



2010.06 vol.13  
(財)尾瀬保護財団



ワタスゲ（果穂）の群生する尾瀬ヶ原

# 特集

## 住民参加による

## 尾瀬の保護活動

尾瀬ボランティアの

活動紹介



「みんなの尾瀬を みんなで守り みんなで楽しむ」。これは平成18年に策定された尾瀬の保護と利用のあり方の方針を示した「尾瀬ビジョン」の基本理念で、いつまでも尾瀬が国民の宝としてあり続けられるように、尾瀬関係者のみならず、尾瀬を訪れる人が力を合わせて、尾瀬を守っていくという私たちの意志、そして願いを明確に示しているものです。

美しい景観とともに貴重な生態系を有する

「自然の宝庫」尾瀬は、過去において幾多の開発の波にさらされましたが、その都度、人々の懸命の努力により守られてきました。また、「ごみ持ち帰り運動」発祥の地でもあることから、「自然保護の原点」と言われています。加えて、「21世紀の新しい国立公園」を目指す現在の尾瀬にとって、ボランティアによる自然保護活動は欠かすことができない大きな力になっています。そこで、今回は、尾瀬保護財団の尾瀬ボランティアを紹介しします。

## 尾瀬ボランティアとは

尾瀬ボランティアは、平成8年に設立された尾瀬保護財団が支援するボランティア団体で、平成22年4月1日現在で、355名（男性284名、女性71名）の方が登録しています。最年少は33歳、最高齢は80歳で、北は岩手県から南は宮崎県の方まで登録しています。

尾瀬ボランティアは、尾瀬の自然保護活動及び適正利用の促進を行うとともに、尾瀬の自然保護の考え方を広く伝えるための普及啓発や環境教育など様々な活動に取り組んでいます。

ます。平成21年度の活動参加者数は、延べ612名でした。

尾瀬ボランティアの活動場所は尾瀬全域ですが、各尾瀬ボランティアがそれぞれの地域において、尾瀬の魅力を伝えるために開いている講演会などを加えると、尾瀬ボランティアの活動範囲は日本全域といっても過言ではありません。

## できることを一生懸命に

尾瀬ボランティアの活動は、プロテクター（自然保護）的活動と、インタープリター（自然解説）的活動の2種類があります。プロテクターの活動は、尾瀬を訪れる登山者に対して尾瀬のルールやマナーを案内したり、最新の自然情報を提供したりする入山口啓発活動や、登山道や休憩場所等の清掃活動、登山道整備活動、植生復元活動などがあります。インタープリターの活動は、休憩場所等で尾瀬の自然や歴史などを解説するお話ボランティア活動や、ビクターセンターで開催しているイベントを支援する活動などがあります。その他、尾瀬で学んだことを生かし、学校や地

域の方々に対して尾瀬の魅力や自然保護の考え方などの啓発活動を行う地域ボランティア活動や、尾瀬保護財団が計画する活動日以外で自主的に取り組む自主ボランティア活動など、尾瀬ボランティアの活動は多岐にわたります。

様々な活動メニューがある中で、各尾瀬ボランティアは、それぞれが持っている得意分野を最大限に生かしながら、尾瀬に対してできることを積極的に行っています。尾瀬ボランティアの活動が活発に継続されてきたのは、多様なボランティア活動を通じて、ボランティア自身が知識研鑽や技術向上等の自己啓発を行ってきたことと、何より、尾瀬を愛し楽しむ気持ちによるものです。



▲入山口で実施している入山口啓発活動



▲ボランティアは各種研修で知識・技術の向上を目指す  
(インタープリテーション研修のようす)

## モットーは明るく楽しく

尾瀬ボランティアの皆さんに感想を伺うと、「最初は一人だけの活動でしたが、活動の回数を重ねるごとに尾瀬好きな友人が増え、自然だけでなくボランティア間の交流も今ではボランティア活動の楽しみの一つです」といった仲間が増えた喜びや楽しさを感じたり、「ボランティア活動は他人からの見返りを期待しない社会貢献活動ですが、通りがかる登山者に感謝されると、何よりも『や

っててヨカッタ♪』と感じられます」といった活動が認められた充実感を語られたりします。今後も、尾瀬ボランティアは、自然とのふれあいや、人と人とのつながりを大切に、活動を続けていきます。



▲ボランティア仲間との交流もやりがいの一つ  
(至仏山登山道立入防止柵設置作業時ようす)

今回は、尾瀬保護財団の尾瀬ボランティアを中心に住民参加による尾瀬の保護活動を紹介しましたが、これらの活動をより発展させていくなから、自然保護の大切さや考え方が多くの人たちの心に広がり、尾瀬、日本、そして地球の環境が守られるように、尾瀬保護財団は努めていきます。

# リレーエッセイ

## アオモリトドマツの感染症

神谷 仁

私が初めて尾瀬の湿原を歩いたのは、今から14年前の1996年のことであった。その頃は、福島県の県立高校の生物教師であったが、福島大学の檜村利道先生の下、大学院で湿原の生態学を学んでいたこともあり、前任者が福島県尾瀬保護指導員をお辞めになった代わりに尾瀬保護指導員の声がかかったからである。福島県尾瀬保護指導員の仕事は、毎年8月下旬に4〜5日間かけて沼山峠から燧ヶ岳の麓をほぼ一周しながらの湿原植生の復元や各種調査等多岐にわたっているが、私は植物班に所属し、湿原植生の復元やヨシの生態調査などに参加してきた(写真1)。参加した当初は植物の同定が難しく、その都度檜村利道先生や樋口利雄先生のご指導を頂いて何とか今日に至っている。その中で主に担当したのは、アオモリトドマツ(オオシラビソ)の天狗巣病の調査であった。



▲写真1 尾瀬沼ヒュッテ前の調査隊

沼山峠から見晴に向かって木道を歩いていると、時折アオモリトドマツの枝上に大きな黄色い球形の塊が認められる(写真2)。これは、天狗巣病である。普段歩いているときは、足元ばかり見ているためあまり気づかないが注意して枝を見てみると天狗巣病に感染した枝に気づくであろう。感染部位は大きなものでは長径が60〜70cmに達するものもある。アオモリトドマツの天狗巣病はさび病菌の1種であることが知られている。天狗巣病

は感染すると著しく成長減退や枯死を生じさせることが判明しており、アオモリトドマツのようなモミ属の植物にとって警戒すべき病害とされている。病巣は健全な枝の中央に乗るような位置で鞠状に枝が叢生し、しかも葉は黄色に病変し、遠方からでも一見して判別が可能であり著しく景観を損ねている。病巣が十分成長するとその後基部から枯れ始めやがて枝全体が枯死し(写真3、写真4)、脱落するようになる。



▲写真2 枝全体が感染している様子(感染の最盛期)



▲写真4 枝全体が枯死している様子



▲写真3 枝の大半が枯死している様子

アオモリトドマツの天狗巣病がいつ頃見つかつたかは定かでないが、1990年頃より沼尻湿原から白砂湿原へ通じる木道沿いで確認されていた。1993年8月には白砂湿原の木道付近でこの天狗巣病のさび胞子のおびただしい発生が観察されたことがあつた。天狗巣病の罹病木は、沼山峠から白砂湿原の亜高山帯森林の木道沿いに集中しており、特に沼山峠、沼尻休憩所（旧蕎麦屋）、白砂湿原周辺の木道沿いに多くの罹病木がみられることから、人間の移動との関連が指摘されてきた。

そこで、1996年より尾瀬地区のアオモリトドマツの天狗巣病の各種調査を行つてきた。主な調査内容は、被害状況の把握を始め、被害木の状態、その立地の植生、調査木の継続観察、罹病枝の伸長などの測定に重点をおいて調査した。それらの詳細は、「尾瀬の保護と復元、23号〜28号」（福島県）にその都度報告してきた。

調査当初からアオモリトドマツ樹木自体への悪影響が考えられたが、現在までのところ、天狗巣病に感染したことが原因でアオモリトドマツそのものの樹勢が著しく減退しているという徴候はみられていない。病巣部位の枯

死や罹病した枝全体が枯死脱落するが、樹木全体が枯死した例は認められなかった。アオモリトドマツの天狗巣病は樹木全体への影響が少なく部分的なものと思われる。

また、これまで中間宿主は確認されていない。一般に、さび病菌は、その生活史には数種の胞子を生じ、宿主のほかにも中間宿主が必要とされている。被害木の立地と中間宿主からの胞子の飛散による天狗巣病の感染との関係を調べる上でも中間宿主を見つけることが今後の課題である。

筆者紹介

神谷仁（かんだに じん）

福島県尾瀬保護指導委員会委員

前号の内藤俊彦氏（元東北大学教官）よりリレーしました。

エッセイ  
尾瀬好日

東京電力株式会社環境部  
尾瀬・緑化グループマネージャー

小島 実

## 「尾瀬と東京電力 今昔」

本年4月、当社の環境部に「尾瀬」に関する業務全般を担当する「尾瀬・緑化グループ」が誕生致しました。尾瀬保護財団の皆様をはじめ多くの関係する方々にお世話になると思っています。よろしくお願い致します。

私自身としても平成8年に水利権と尾瀬に関する業務を担当して以来、14年振りに尾瀬の仕事に戻ってきました。

その当時は振り返ると、平成7年には「尾瀬保護財団」が設立され、当社も一企業でありながら、土地所有者として永年尾瀬の自然保護活動に携わってきたという思いから財団へ参加・協力をさせて頂きました。翌年、平成8年には「尾瀬ヶ原」の水利権を更新しないという経営判断がなされ、当社と尾瀬の関わり方について、大きく方向転換をした時期でもありました。その際に「尾瀬と東京電力」という冊子を発行しました。大正11年の水利権の取得、大正5、大正15年の土地取得以来、

当社と尾瀬の関わりについて、ご紹介した「小さな一歩」でした。



▲尾瀬と東京電力（旧）

その後、「尾瀬保護活動担当」として竹内純子氏が活躍され、本年4月には、HPで掲載されている「TEPCOのECCO対談」を編集した「みんなの自然をみんなを守る20のヒント」という本を出版するまでに至りました。先に紹介した「尾瀬と東京電力」も写真付きのカラー版にリニューアルされ、DVDも制作されています。



▲尾瀬と東京電力（新）



▲みんなの自然をみんなを守る  
20のヒント

昨今は、「東京電力自然学校」尾瀬・戸倉での活動や2年目社員の尾瀬研修、各事業所から「尾瀬」に関する講演依頼が飛び込んでくる等、尾瀬の自然保護活動に関する社内外の方々の意識も高まってきていることをひしひしと感じています。過去に尾瀬に関する業務を担当していた者としても大変うれしく思います。

今後とも、尾瀬に関わる多くの方々と手を携えながら、少しでも尾瀬の自然保護活動についてお役に立てることができればと思っております。皆様方のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い致します。

## 「出会いの尾瀬」

42年前、新婚旅行ではるばる京都から尾瀬にやって来た。若い時から山歩きをしていた私にとって、尾瀬は全く未知の世界で憧れの地であった。結婚生活の不安よりも二人で同じ感動を共有できる自然とのふれあいや初めての尾瀬との出会いに胸を膨らませていた。昭和42年10月10日大清水から尾瀬沼に入り、長蔵小屋で一泊し翌朝船に乗り沼尻へ。燧ヶ岳を登り御池へ下り檜枝岐で一泊し、また燧ヶ原裏林道を経由して三条ノ滝を見て尾瀬ヶ原



▲尾瀬沼畔から船に乗る (S42.10.11)

で一泊。檜枝岐を出て誰にも出会わず晩秋のキツネ色の尾瀬ヶ原をモクモクと二人だけで歩いていたことが今の尾瀬の喧騒からは想像できない光景だった。

再び尾瀬に行ける様になったのは、夫の転勤で東京に居住し子育ても終わった頃で22年も経っていた。平成7年に尾瀬ボランティアの募集があり、すぐに応募した。当時オーバークラスが問題になっていて、私が尾瀬に行くことも自然破壊の一翼を担っているのではという思いからだ。尾瀬ボランティア誕生と同時に活動に参加し、「ゴミ拾いや入山指導、お話ボランティア、植生復元と年に2、3回参加し、14年が経った。その間の転勤で京都、東京、明石、そして現在は滋賀の信楽に住んでいるが、尾瀬に行き続けて活動に参加している。

ここ数年は尾瀬沼でお話ボランティアを定点観測のように同時期、同メンバーで活動している。昨年5月、中国からのお客様とはお互い言葉は通じないが、身ぶり手ぶりや漢字で意志を伝え合い談笑し、終いには突然日本語で「尾瀬が一番」と話されて嬉しかったこと、九州から大病を克服され尾瀬に来れた喜びを涙ながらに語っておられた年配の男性、

アヤメ平では「ここは天国だよ」とベンチで寝ておられた大工さん、草紅葉を見て「おらうちの田んぼの稲のほづが綺麗だ」と言っておられた農家の方、いろんな人達との感動の出会いが忘れられなくて、また尾瀬に出かけたい。

動物達との出会いも楽しみである。残雪の白砂峠で目の前を横切った金色のテン、山ノ鼻の木道の横で気持ちよく寝ているヤマネ、それに昨秋ボランティアの巡回活動をしていた時、クロベ（ネズコ）の根元で4分間も出たり入ったり飛んだり跳ねたりと姿を見せてカメラに収まってくれたオコシヨなど、いつも喜びと感動を与えてくれる尾瀬を大切に思い、これからも活動を続けていきたいと思っている。



▲中国からのお客様（左）とボランティア仲間の油井さん（中央）、筆者（右）

# 原をわたる風だより

## 山の鼻でジッターセンターより



### 開所式

快晴の5月9日。尾瀬関係者や一般登山者が顔を揃え、新井事務局長の挨拶に始まり、地元の方と共に山の安全祈願を行いました。

その後、数字から読む尾瀬ヶ原というスライドショーや、昭和30年頃の貴重な映像を上映。素朴ながら素晴らしい音色、尾瀬ポランティア登坂さんのハーモニカ演奏に心和む山の鼻V.C開所式となりました。



### 尾瀬のおすすめスポット

これからの季節、大勢の方が鳩待

峠から山ノ鼻を経由して牛首方面へ出かけ、木道は混雑します。実は皆さんが休憩する山ノ鼻には、あまり人が多くない素敵な「研究見本園」というスポットがあります。木道がぐるりと一周できて、ゆっくりまわっても1時間弱で歩けるコースですが、そこでは沢山の種類の植物を観察することが出来ます。そこそこ広々とした感覚も感ずることができて、まさにお得な「コース」といえます。ここからの至仏山の眺めも良いものがありますよ。ぜひ、時間をかけてゆっくりと歩いてみてください。新しい発見があるかもしれません。



▲研究見本園

(落合 清勝)

尾瀬は湿原や高山、森林など様々な風景が楽しめる場所。そんな数多くの風景の中から鳩待峠とアヤマ平の中ほどにある傾斜した湿原、横田代を紹介いたします。ここに咲くお花の多くは尾瀬ヶ原などでも目にす

ることのできるおなじみのものが多いのですが、特筆すべきなのは、その景観のすばらしさです。鳩待峠から訪れると、それまでの森林の景色が一変し突然湿原が目の前に現れます。一方アヤマ平から足を運ぶと正面に広がる雄大な至仏山を背景に傾斜した湿原を一望することが出来ます。この横田代のことを「尾瀬の奥座敷」と評した方がいます。その言葉どおり横田代への道では落ち着いた雰囲気の山旅が約束されています。時には尾瀬ヶ原の賑わいから離れて静かな奥座敷でのんびり過ごしてはいかがでしょうか？



▲横田代

(石田 義則)

### 尾瀬に来て一番感動したこと

尾瀬にやってきて早1ヶ月が経ちました。尾瀬で一番感動したことは、その自然の移り変わりの早さです。一年の半年が冬で、残りの半年で春、夏、秋が駆け足で過ぎてゆくだけであ

り、その風景にも動植物にもめまぐるしい変化が見られ、毎日が新しい発見の連続です。5月の中旬、一面雪原だった下田代が、10日後に巡回した時には雪が消え、すっかり湿原になっていたり、昨日までは咲いていなかった花が今日は咲いていたり……。日々の変化にこれだけ感動していただきますので、これから季節の変化とともに、どのような尾瀬の表情が見られるのか、とても楽しみです。

(小林 加奈)

### 山の鼻公衆トイレ改修工事完了

5月26日より行っていた、女子は6ブース、男子は2ブース、和式から洋式への改修工事が完了しました。使いやすいですが増したトイレを爽やかにご利用ください。



▲設置された洋式便所



▲便器が外れ新しくタイルを設置

現地情報

# おじじよだより

## 尾瀬沼ビジターセンターより

### 尾瀬沼の沼がの2010

#### 尾瀬沼シーズン開幕

昨シーズンが終わり、ストリープでドタバタと準備をしているうちに、新しいシーズンが始まりました。4月28日には入山、5月1日にはビジターセンターをOPENさせ、5月8日には新人職員もそろい、本格稼働に入っています。今年は男性4名、女性3名の職員構成です。



今年の尾瀬沼は、4月に入り寒い日が続いた為に雪融けが遅く、大清水からは残雪を踏みしめての入山でした。

ゴールデンウィークは快晴が続き、温かい日が続くかとおもいきや、5月12日から3日連続の雪に見舞われ、約15cmの積雪。また、6月2

日と3日には朝、霜が降りるといって、極端に温かい日と寒い日が交互に来るシーズン始めとなっています。

今年は、生物多様性会議が10月に名古屋で開かれることもあり、入山で、日頃、入山される方の目に触れない、興味を持たれない尾瀬の「小さないきもの」にも焦点を当てて、ご紹介できたらと思っています。

近年、携帯電話の普及により、若い方からお年を召した方まで、入山前の打合せ、申し合わせがへたになつたようで、「大人の迷子」が増えてきているように思えます。既に何件か行方分からない方の問い合わせがビジターセンターにも入っています。尾瀬では携帯電話は通じません。「どこで待っている」、「今日はどこまで行く」などの確認をしっかりと取られてから行動されるようお願いいたします。

今年も、尾瀬に来られる方への情報提供だけでなく安全管理もしっかりと行っていききたいと思っております。

ビジターセンター責任者 中川 昌二

#### 新人職員よりひとこと

尾瀬に来て一ヶ月、ほとんどの景色が雪だった頃から今は新緑と花が見られるようになり、すさまじい変化の中にいるなと実感しています。またビジターセンター職員の仕事である巡回で尾瀬のあちこちを歩いてみて、尾瀬は様々な顔を持った場所

がある事を初めて知りました。これから半年間の短い四季ですが、楽しんで過ごせたらいいなと思います。(白石 希)

ビジターセンターでの生活で最も魅力を感じることは、やはり周囲の豊かな環境です。朝夕の静かな湿原をゆっくりと時間をかけて歩き、花や鳥を観察することが私の一番のお気に入りです。日々刻々と変化していく湿原の様子に驚いたり、初めて実物を目にする鳥を見つけてはニヤリとしています。尾瀬で生活を始めてから、花が咲いたことを喜ぶ気持ちが強くなったように思います。豊かな自然は人の感情にも良い影響を与えてくれることを自身の変化により実感しています。(弥富 昭子)

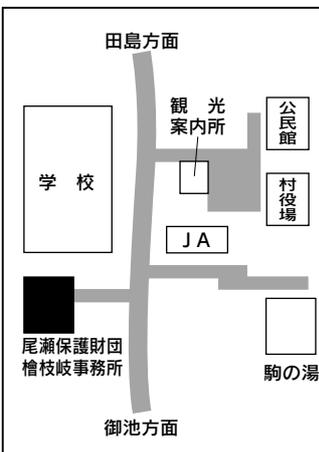
山を歩く、自然観察をする、情報発信するという憧れのビジターセンター暮らしが始まって一カ月が過ぎました。始めはいろいろ戸惑うこともありましたが、少しずつ仕事や生活のペースが出てきたと実感です。そして休日はいえは、やはり好きな山に登っています。尾瀬のシンボル燧ヶ岳からの尾瀬沼や尾瀬ヶ原、日光連山、奥利根源流の山、そして越後の山々と、どこを見ても素晴らしい展望に酔いしれています。また、会津駒ヶ岳、アヤマ平から鳩待峠への道と、新緑と残雪に輝く山々にもすっかり魅了されています。(高島 省)

念願であった檜枝岐事務所がOPENしました。

檜枝岐村のご厚意により、駒の湯の道を隔てた反対側にある「老人憩いの家」を職員手作りで改装して、財団の事務所として使えるようになりました。

常駐ではありませんが、職員が滞在して、会津駒ヶ岳や帝釈・田代山などの周辺の山への巡回登山や、檜枝岐村や南会津町周辺の情報収集を行う予定です。

いままではこれらの地域を歩くには、ビジターセンターに戻る為に御池から沼山峠へのシャトルバスの最終時間を気にしていましたが、これがない限り、じっくりと情報収集ができるようになりました。また、インターネットでの情報の収集も出来、ビジターセンターの展示も、より幅広く、深く、作ることが期待しています。



## ■連載コラム 認定ガイドがススメる っておきの尾瀬 (No.1)

会津駒ヶ岳、帝釈山・田代山で尾瀬新体験 〈平野崇之 (尾瀬・檜枝岐案内人の会)〉

ガイドしたお客さんに「尾瀬にまた来たい、今日は楽しかった」と純粋に言ってもらえるようなガイドを目指し日々活躍している尾瀬・檜枝岐案内人の会の平野崇之さんにお話を伺いました。

尾瀬歩きが何倍も楽しくなるような尾瀬の楽しみ方を伺うと、「景色を見ながらただ歩いているとどうしても飽きてしまい、目標の場所に行くだけになりがちです。そんな時は、尾瀬のガイドブックや高山植物の本などを片手に、目の前に咲いている花の名前を調べたり、遠くの山はなんという山?と、調べながら歩くと目の前にある尾瀬や、はるか向こうにある尾瀬と、目に見えるもの全てが楽しめると思いますよ」と平野さん。

そんな楽しみ方をしながら尾瀬歩きをする時の必須アイテムを伺うと、「デジカメ、ガイドブックはもちろんです。小さくて軽いルーペなんかも持っているといふと意外と楽しいものです。普段見慣れている花もまた変わった見え方がありますよ」と平野さん。

そんなアイテムを持って歩きたい尾瀬のお勧めのコースを伺うと、「春のお勧めは馬坂登山口から登る帝釈山、田代山です。お目当てはオサバグサ。一度見ればま

た行きたくなる見事な群生で咲き乱れています。さらに登って田代山湿原で可憐なお花が待っていてくれます。それから、7月下旬の会津駒ヶ岳では、一度に二度おいしいことがあります。それは、春に咲く花と夏に咲く花が一度に見られるのです。本当に得した気分になりますよ。また、駒の小屋から御池方面の富士見林道は人が少なく、展望も良くてのんびり歩く場所としては非常によい場所です」と尾瀬国立公園誕生時に新しく尾瀬に加わったエリアの楽しみ方を教えてくれました。



### 尾瀬檜枝岐案内人の会

平野崇之  
〈尾瀬自然ガイド〉

tel 0241-75-2432

URL  
<http://www.oze-info.jp/>

## ■連載コラム 認定ガイドがススメる っておきの尾瀬 (No.2)

尾瀬に笑顔という花を咲かせたい 〈青木保久 (片品山岳ガイド協会)〉

湿原や森林でいろいろな花が咲き始める6月中旬から下旬にかけての尾瀬が一番好きと語り、尾瀬の移り行く季節の美しさをお客さんに伝え続けている片品山岳ガイド協会の青木保久さんにお話を伺いました。

尾瀬でガイドしていて、印象に残る思い出を伺うと「やはりオコシヨやヤマネなどの動物を見た時はしつかり思い出に残っています。豊かな自然を持ち、動物たちの楽園である尾瀬ですが、人間以外の哺乳類の動物に出会える機会は多くはありませんからね。オコシヨなどの愛らしい動物に出会うためにも、急いで登山道を歩き目的地を目指すのではなく、ゆったり尾瀬の自然全体を楽しんでほしいです」と青木さん。

「尾瀬を訪れる皆さんには、『鳥の鳴き声を聞き分けよう!』とか、『樹木の名前とその特徴を覚えよう!』といった自分なりの目標を持って、その目標を達成できるように観察しながら、ゆっくり歩いてほしいです」と、尾瀬歩きを楽しむためのコツを教えてくださいました青木さん。続けて青木さんオススメの尾瀬のスポットを伺うと、「見晴十字路手前の尾瀬ヶ原です。至仏山を背景に広がる湿原は、言葉にできないほどの開放感

がありますし、静かに風景を楽しめる場所でもあると思います」  
「お客さんにガイドウォークを存分に楽しみ、満足してもらうために、日々勉強し、ガイドとしての知識や技術の向上を目指しています。すべてはお客さんに笑顔で帰ってもらうためですが、その笑顔から私は反対に力をもらっています」と、青木さんは、尾瀬を訪れるお客さんを温かく迎え、楽しく安全にガイドし、笑顔で見送り続けています。



### 片品山岳ガイド協会

青木保久  
〈尾瀬自然ガイド〉

tel 0278-58-7801

URL  
<http://oze-guide.com/>

平成19年の尾瀬国立公園誕生時に、新しく尾瀬の仲間に加わった会津駒ヶ岳。会津駒ヶ岳山頂付近からは燧ヶ岳や至仏山まで望むことができ、その圧倒的、そして開放感に満ちあふれた眺望は何度でも見たくなる魅力をもっています。そんな会津駒ヶ岳で、魅力ある小屋作り挑戦している駒の小屋の三橋一弘さんにお話を伺いました。

## 尾

瀬から始まった山人人生

「私が尾瀬で初めて働いたのは、平成3年の時でした。それまでは東京で生活していて、いつかは山で働きたいと思っていました。ちょうどその時、従業員を募集していた御池ロッジで採用され、尾瀬での生活が始まりました」と周囲が雪に覆われながらも、焚かれたストーブの熱が心地よく体を温めてくれる駒の小屋で、三橋さんは話し始めてくれました。

「尾瀬ヶ原に象徴されるように、広大な湿原に木道が引かれていて、花がたくさん咲く有名な場所、というのが、尾瀬に来るまで私が持っていた尾瀬のイメージでした。平成3年から、尾瀬の山小屋で働く中で、尾瀬の豊かな自然とふれあうことが経験でき、いろいろなシーンにも出会えました。中でも、尾瀬で控

えめに咲くちよつとした花を見るのが好きだったこと、そして、尾瀬の秋の風景がとても印象深かったことを覚えています」と三橋さんは尾瀬との出会いの頃を思い出しながら、話を続けてくれました。

## 残

雪期の営業

いったん尾瀬を離れ、北アルプスの山小屋で7年間の経験を積み、平成20年に駒の小屋の管理人として尾瀬に戻ってきた三橋さん。その頃のことを伺った。

「会津駒ヶ岳には3回登ったことがあるだけで、駒の小屋には宿泊したことがなかったため不安もありましたが、役場をはじめ、村の方々にサポートしていただけたので、安心して管理人になることができました。のんびり、マイペースで小屋をきりもりできる楽しみが駒の小屋にはあります」と三橋さん。尾瀬の山小屋では唯一駒の小屋だけが持っている3月からの残雪期の営業（※週末のみ）について伺いました。

「会津駒ヶ岳は3月下旬くらいになると、山スキーヤーなどの登山者が多く訪れますが、この時期の会津駒ヶ岳は冬の厳しい表情も持っていますので、登山者の方々のリスク回避、避難場所の提供という目的を主に営業しています。また、この時期

の雪の状況を確認できるので、4月以降の入山時の参考として活かすことができます」と残雪期の営業について語る三橋さん。



▶営業終了後下山前に雪囲いを設置する三橋さん（上）  
▶小屋前から会津駒ヶ岳山頂を望む（下）

## 魅

力的な小屋にしたい

「初めて小屋に来てくれる登山者も大歓迎ですが、その方々が常連やコアなファンになってくれるとさらに嬉しいですね。そのために小屋を魅力的なものにしていかなければいけないと考えています。駒の小屋では、明かりを取るためのランプなど昔ながらの雰囲気大切にするとともに、小屋のホームページは見る人が楽しめるように工夫を凝らしたりし、新しいことにもチャレンジしています。実はホームページの作成に当たっては、中学生からもらったアイデアを取り入れています」と様々な角度から小屋の魅力を伝えよ

うとしている三橋さん。

「中門岳から大津岐にかけての稜線をゆっくり歩いてほしいです。そして、ゆったり山歩きが楽しめるキリッ登山口を活用してほしいですね」と最後に会津駒ヶ岳をより楽しむためのポイントを話してくれました。



▲柔らかいランプの光の中自炊をしながらの団らん（上）

◀小屋前の三橋さんご夫婦（H22.3.28）（左）



### 駒の小屋

（檜枝岐村駒ヶ岳1番地）

■問い合わせ先  
080-2024-5375

■宿泊料金  
1泊素泊まり 3,000円

■営業期間（例年）  
4月下旬～11月上旬  
（3月下旬から週末のみ営業）

■URL  
<http://komanokoya.com/>

## 尾瀬保護財団

平成27年度

## 事業計画



尾瀬保護財団の平成22年度事業計画が、本年3月15日に開催された第32回理事会・評議員会で決定されました。事業計画の概要は次のとおりです。

## 1 利用者啓発事業

## ① 入山者啓発事業

ア 入山口啓発…主要入山口において入山マナーの啓発、利用案内、ごみの持ち帰り運動等を実施する。

イ 尾瀬ボランティアの活動支援…活動拠点の整備やボランティアのための研修会を開催する。

ウ ガイド利用の普及・促進

ア 尾瀬認定ガイド制度の推進…ガイド利用による自然体験やエコツアーなどを通じて、尾瀬の自然環境の保全を図るため、尾瀬認定ガイド協議会の運営を委託し支援する。

イ 尾瀬自然解説ガイド…ガイド利用の魅力、有用性等を利用者に啓発し、普及を図るため、尾瀬ボランティアを母体に養成した尾瀬自然解説ガイドによるガイド活動を実施する。

## ② 自然解説事業

ア 自然解説事業…ビジターセンター職員等による自然解説事業を行う。

イ 環境学習推進事業…「環境学習の場」としての尾瀬の利用促進を図るため、山の

鼻ビジターセンターでミニガイドツアーを実施する。現地情報や学校の利用状況の情報発信を行う。

ウ フィールド講座…一般の方を対象にテーマを決めたガイドウォークを実施する。

## ③ 啓発PR事業

ア 機関誌の発行…年4回発行

イ 尾瀬フォーラム及び「わたしの尾瀬」フットコンテストの実施

ウ ホームページの管理運営…海外への情報発信を強化するため、ホームページ及び簡易なパンフレットの外国語版（中国・韓国語）を作成する。

エ 尾瀬ガイダンスの実施

オ 出張講演の充実

## 2 環境保全事業

① 植生復元事業…至仏山東面登山道や尾瀬沿地区等の荒廃した湿原等の植生復元を実施する。

② 至仏山保全対策…至仏山保全対策会議において至仏山保全について検討し各種対策を実施する。

③ 山ノ鼻地区気象観測…山ノ鼻地区の気象を観測し、データ整理を行う。

## 3 施設管理事業

① ビンターセンターの管理運営

② 公衆トイレの維持管理

③ 尾瀬の安全対策と歩道巡視

## 4 調査研究事業

① 至仏山環境調査…浸食や裸地化の進行が著し

い3ルートについて、付け替え候補地の植生及び地生地の調査を行うとともに、現登山道の劣化原因の特定や修復目標と復元方法について調査する。

② 適正利用推進事業…「尾瀬ビジョン」の実現に向けて主体的に取り組む。ツキノワグマ対策については、「尾瀬国立公園ツキノワグマ対策協議会」の運営を行うとともに、各種生息調査や出没した際の保護管理対策を関係者と連携し実施する。

③ 尾瀬国立公園編入地域調査事業…尾瀬国立公園編入地域の環境調査を実施し、自然生態系の保護復元に必要な基礎的資料を収集する。

## 5 顕彰事業

湿原に関する学術研究を奨励し、優れた業績を挙げた者に対して尾瀬賞を授与するため、第14回尾瀬賞の論文を募集する。

## 6 友の会等事業

財団活動に対する支援を幅広く求めるため、友の会会員を募集し、増加に努める。また、特定公益増進法人の認定制度を活用し、企業団体等に対し積極的に寄付を募る。

## 7 その他

① 尾瀬サミット2010の開催

開催時期…9月2日～3日（山ノ鼻地区）

② 尾瀬国立公園関係者連絡会議の開催

③ 拡張地域における活動拠点の整備…檜枝岐村内に臨時の事務所を設置する。

④ 公益財団法人への移行に向けた整備促進

⑤ 財団中長期ビジョンの策定

⑥ 物品の販売…フオトカレンダー等の販売

⑦ 尾瀬カード募集…尾瀬カード発行の促進

# 尾瀬ボランティア情報

このコーナーは尾瀬ボランティアに登録されている方のためのページです。

## ●ボランティア活動が始まりました。

今年度から尾瀬ボランティア担当になりました小野里典明（おのざとのりあき）です。ボランティアの皆さんが、明るく、楽しく活動できるようにがんばりますので、よろしくお願ひします！

さて、今年度のボランティア活動の日程は、お送りした活動計画をご覧ください。

活動への参加をご希望の方はEメール、FAX、電話等でご事務局へお申し込みください。活動後は必ず活動報告書を提出してください。（活動報告書の様式はホームページにありますのでご利用ください。）

今年度も多くの方に参加いただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

## ●活動情報

### ○尾瀬巡回清掃

#### アヤマ平

- ・日時／8月7日（土）9時～12時
- ・予定コース／鳩待峠→横田代→アヤマ平→

富士見峠（解散）

#### 燧ヶ岳

- ・日時／8月7日（土）7時～14時30分
- ・予定コース／御池→熊沢田代→俎峠→長英新道経由尾瀬沼V C（解散）

#### 会津駒ヶ岳

- ・日時／8月28日（土）7時～16時
- ・予定コース／滝沢登山口→駒の小屋→会津駒ヶ岳→中門岳→滝沢登山口（解散）

#### 至仏山

- ・日時／8月28日（土）8時～15時30分
- ・予定コース／山ノ鼻V C→至仏山→小至仏山→鳩待峠（解散）

## ○ありがとう尾瀬清掃

#### 大清水

- ・日時／9月11日（土）8時～12時
- ・予定コース／大清水→一ノ瀬→三平峠→尾瀬沼V C（解散）

#### 燧叢林道

- ・日時／9月11日（土）7時～14時
- ・予定コース／御池→天神田代→三条ノ滝→赤田代→見晴（解散）

## ●環境学習ミニガイドツアー実施活動について

インタープリテーション研修を受講されたボランティアの方が、山の鼻ビジターセンターで実施する環境学習ミニガイドツアーにおいて、ビジターセンター職員の手助けを行い、また職員と協力して実施することにより、インタープリテーション技術の習得と向上を図

るとともに、尾瀬の利用者へ尾瀬の貴重な自然を守る大切さを伝えることを目的として実施します。

活動の概要は既に活動計画の中でお知らせしているとおりですが、詳細はホームページをご覧ください。事務局へお問い合わせください。

## ●財団檜枝岐事務所の宿泊利用について

檜枝岐村内での業務を円滑に行うために、財団では、今年度から檜枝岐事務所を開設しました。檜枝岐事務所は檜枝岐村から「老人憩いの家水芭蕉」をお借りし、環境整備を行い開所したものです。

この檜枝岐事務所の2階大広間を、ボランティアのみなさんが活動で尾瀬に入る際にご利用いただけるようにしました。申込方法や利用方法などの詳細はホームページをご覧ください。ただ、事務局へお問い合わせください。

## ●群馬県総合表彰の受賞について

長年にわたり公共の福祉に尽力された方々を表彰する群馬県総合表彰を、尾瀬ボランティアの栗原洋三さん（No. 435）が受賞されました。環境分野、とりわけ、長年の尾瀬ボランティアでの積極的な活動が評価されたの受賞となりました。本当に、おめでとうございます。今後も、尾瀬ボランティアの活動が、より充実したものになるように全力で支援させていただきたいと考えています。



## 寄付のお願い

**尾瀬保護財団では広く寄付をお願いしております。**

当財団は、尾瀬において、利用者に対し自然への理解を深めるための解説活動や、適正な利用に関する普及啓発を実施するとともに、各種の環境保全対策や施設の管理運営等を実施し、尾瀬の優れた自然環境の保全に寄与したいと考えております。

◆個人住民税の寄付金控除の対象に尾瀬保護財団が指定されました。

個人住民税の寄付金税制の拡充により、各都道府県・市区町村が条例で指定した法人に対する寄付が、住民税の控除対象となるようになりました。尾瀬保護財団は下記の県・市・町から指定を受けています。(財団への寄付を行った翌年1月1日にこれらの県・市・町にお住まいの個人が対象となります。)

福島県、群馬県にお住まいの寄付者：個人県民税

福島県富岡町、群馬県前橋市、群馬県高崎市、群馬県桐生市にお住まいの方：個人県民税と個人市民税・町民税

◆また、尾瀬保護財団は「特定公益増進法人」に指定されており、当財団への寄付は所得税・法人税の優遇措置を受けることができます。

※なお、所得税、住民税控除の対象となる方には、領収書の送付時にご案内資料等をお送りしております。

◆企業・団体の皆様とより良いパートナーシップを築けるよう、下記の制度があります。

種類	条件	特典
特別協賛寄付	3年に渡る毎年30万円以上の寄付、または一時の100万円以上の寄付	①財団機関誌、財団ホームページに企業等名称、ロゴマーク、メッセージを1年間掲載 ②尾瀬国立公園ロゴマークの取扱要領に基づき使用申請ができ、許可後は無償で1年間使用
協賛寄付	3年に渡る毎年10万円以上30万円未満の寄付、または一時の30万円以上100万円未満の寄付	①財団機関誌、財団ホームページに企業等名称を1年間掲載

■寄付につきましては、財団事務局（群馬県庁17階・027-220-4431）にご来訪いただくか、財団にご連絡の上、下記口座にお振込をお願いいたします

福島県	東邦銀行県庁支店	普通	1078095
	福島銀行本店営業部	普通	0590088
	大東銀行福島支店	普通	1287138
群馬県	群馬銀行県庁支店	普通	0515428
	東和銀行本店営業部	普通	0975531

新潟県	第四銀行県庁支店	普通	1182791
	北越銀行県庁支店	普通	0199366
	大光銀行新潟支店	普通	0837334

特別協賛寄付者のご紹介

※寄付日順、敬称略



ベイスシア

2010年3月9日寄付

**ベイスシアグループ** ベイスシアグループ様より196万円余のご寄付をいただきました。ベイスシアグループ様では、グリーン家電エコポイントの交換商品として商品券を提供しており、商品券交換金額の一定割合を、環境保全等を行っている団体等に寄付する制度のもとにご寄付いただきました。(初回寄付)

**寄付者からのメッセージ**：ベイスシアグループは、「地域共生」を理念に自然環境保護にも積極的に取り組んでいます。今回の環境寄付に当たっては、当グループ発祥の地である群馬をはじめ、出店エリアの福島、新潟、栃木に広がる貴重な自然「尾瀬国立公園」の環境保全と適正利用を推進している尾瀬保護財団を選定させていただきました。群馬県が誇る豊かで美しい自然が、いつまでも多くの人々に楽しんでいただけることを、心より期待いたします。



アサヒビール株式会社

2010年2月22日寄付

**アサヒビール株式会社群馬支社** 47都道府県において、アサヒスーパードライ缶、ピン1本あたり1円を各都道府県の売上に応じて、環境関連等の団体に寄付するもので、平成21年春の寄付に続く第二弾キャンペーンより593万円余のご寄付をいただきました。(通算寄付総額 9,079,800円)

**寄付者からのメッセージ**：アサヒビール(株)群馬支社では、地域との共生や地域貢献を目標に掲げ、昨年春に引続いて秋にも、アサヒスーパードライ「うまい!を明日へ!プロジェクト第2弾」を実施し、売上の一部を尾瀬保護財団へ寄付させていただきました。より多くの県民の皆様にご賛同いただき、また賛同いただくことで、県民の皆様とともに群馬県の環境保全を進めていきたいと考えています。群馬県の子供たちの未来のために、お役立ていただけたら幸いです。



株式会社コメリ

2010年2月4日寄付

**株式会社コメリ** コメリ緑資金の会様より50万円のご寄付をいただきました。このご寄付は、ホームセンターを展開している株式会社コメリ様が、利益の1%を緑の育成の為に社会還元する目的で設立されたコメリ緑資金様より助成金としていただいたものです。今回を含め、今後3年間に渡りご寄付いただくことになっています。(初回寄付)

**寄付者からのメッセージ**：「コメリ緑資金の会」は、日頃お世話になっている出店地域が美しい花や緑に囲まれ豊かであって欲しいと願い、平成2年より利益の1%を原資に助成活動を行なっています。尾瀬のかけがえのない自然遺産が、未来につながる次世代の子どもたちへと永遠に引き継がれることを願っています。



2009年9月11日寄付

**株式会社とりせん** 会社創立六十周年を記念して社員の皆様から募金された105万円余りをご寄付いただきました。(初回寄付)  
寄付者からのメッセージ：会社創立六十周年記念事業の一環として、尾瀬の自然保護に役立ててもらおうと社員から募金を募り寄付をさせていただきました。尾瀬は当社の出店地域でもある群馬県・栃木県・福島県にまたがっており、我々の気持ちが貴重な自然の保護に役立てていただけることを期待します。

## 尾瀬紀行

尾瀬紀行(信託ファンド)で收受した信託報酬の一部として総額690万円余りをご寄付いただきました。平成19年より今回が3回目のご寄付となります。(通算寄付総額 21,787,605円)



### 第四銀行

2009年7月10日寄付

**株式会社第四銀行** 今年度は76万円余りをご寄付いただきました。(通算寄付総額 2,682,704円)。  
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けるため、今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。第四銀行はこれからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。



### 新潟証券株式会社

2009年7月10日寄付

**新潟証券株式会社** 今年度は29万円余りをご寄付いただきました。(通算寄付総額 945,476円)  
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けるために今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。新潟証券は第四銀行グループとして、これからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。



### 東邦銀行

2009年6月19日寄付

**株式会社東邦銀行** 今年度は120万円余りをご寄付いただきました。(通算寄付総額 3,379,462円)。



### 群馬銀行

2009年6月8日寄付

**株式会社群馬銀行** 今年度は117万円余りをご寄付いただきました。(財団設立当初からの寄付を含め、通算寄付総額 21,991,560円)  
寄付者からのメッセージ：信託報酬の一部が尾瀬保護財団への寄付となる仕組みの投資信託を取扱っており、多くのお客さまの善意の集大成を寄付させていただきました。趣旨にご賛同頂き投資信託をご購入頂いた全てのお客さまに深く感謝いたします。



2009年6月8日寄付

**DIAMアセットマネジメント株式会社** 今年度は345万円余りをご寄付いただきました。(通算寄付総額 10,893,803円)。  
寄付者からのメッセージ：尾瀬の美しく貴重な自然を後世に受け継ぐために今回の寄付金が有効に活用され、環境保全の一助となることを期待しております。DIAMはこれからも金融の仕組みを通じて、社会に貢献する資産運用会社を目指します。

## 協賛寄付者のご紹介

※寄付日順、敬称略

**株式会社上毛新聞社**  
2010年2月2日寄付

群馬県伊勢崎市にカラー印刷機能を充実させた新しい印刷センターを建設したのを記念し、24面からなる特集版を作成して配布した際の広告料の一部より50万円をご寄付いただきました。(初回寄付)

**株式会社フレッセイ**  
2009年11月20日寄付

各店舗において、平成20年9月から平成21年8月までの間に販売した、対象商品の売り上げ1本につき1円をエコ基金として、49万円余りのご寄付をいただきました。(通算寄付総額 701,843円)

## その他の寄付者のご紹介

※敬称略

たんぼぼ会



## 新職員紹介

今年度より新しい仲間が加わりました。

【尾瀬沼  
センター】



高島 省  
(たかしま あきら)



弥富 昭子  
(いやどみ あきこ)



白石 希  
(しろいし のぞみ)

【山の  
センター】



小林 加奈  
(こばやし かな)



萩原 岳史  
(はぎわら たけし)



沢尻 雅昭  
(さわじり まさあき)



島野 卓生  
(しまの たくお)



横関 匠  
(よこぜき たくみ)

## 編集後記

連載コラムとしてお届けしてきました「続・山小屋主が語る尾瀬の秘話」は、今号の駒の小屋が最後になります。これまで、たくさんの山小屋を取材し、昔の尾瀬や山小屋の話を紹介しながら、山小屋の魅力を伝えてきました。尾瀬の山小屋は、どの小屋も個性的で、あたたかく、ゆったりとした気分を味わえます。皆さんも尾瀬の山小屋巡りをしてみてはいかがでしょうか。(小)

尾瀬の三二観察 ⑨

—タテヤマリンドウ—  
(果実：6月～7月)

尾瀬ヶ原が最も美しいのは雨の日だ。そして植物たちは晴れた日とは違う振る舞いを見せてくれる。

雨の日、花は閉じているが、それとは反対に実が開く。淡黄色で楕円形の唇を大きく開いて雨粒を待つ。唇の中にたまった雨水の底には、胡麻のようなタネが沈んでいる。この唇の中に大きな雨粒が落ちると、タネは水と共に遠くに弾き飛ばされるのだ。と、書いたが私はその飛び散る現場を見ていない。運よく雨の日にタテヤマリンドウに出会ったら、観察してみませんか。

(フラワーエコロジスト 田中 肇)



『友の会』コーナー

「友の会」は豊かな尾瀬の自然を守る財団の活動を支援してくださる方々の集まりです。



年会費	○個人会員	1□ 2,000円
	○ユース会員 (3月31日現在満22歳以下)	1□ 1,500円
	○家族会員 (個人会員と同居の家族)	1□ 1,500円
	○賛助会員 (団体・法人)	1□ 10,000円

☆友の会の会員期間が加入から1年になりました！

友の会の会員期間がご加入から1年間となりました。これから尾瀬に行こうと考えている方、いつ友の会に入られても、1年間フルに楽しんでいただけます。

☆メールクラブのご案内について

クラブにご登録いただいた友の会の会員の方に、尾瀬のいろいろな情報をメールにてお送りする「メールクラブ」を行っています。会員専用サイト(インターネット)も始めました。メールに記載されているアドレスで、めったに見れない尾瀬の写真をご紹介！ (クラブ登録は財団ホームページから)

★特典について

友の会に加入された方に次の特典をご提供させていただいております。

- 初回加入時：友の会会員バッチ進呈、各種資料送付
- 財団機関誌：年4回配布
- 宿泊割引：尾瀬戸倉、桧枝岐村周辺宿泊割引  
(休日、祝祭日前等の除外日があります)
- 財団販売品の会員割引販売 (通信販売)
- ※賛助会員の特典は財団機関誌の送付のみ



〈友の会専用サイト〉



尾瀬保護財団

携帯サイト 情報配信中

緊急情報

お知らせ

ライブ映像

など

oze mobile